

CompTIA Japan ITSC2008 参加要項

ビデオの提出について

【提出先】

東京都千代田区三崎町 3 - 4 - 9 水道橋 MS ビル 7 階 CompTIA 日本支局

CompTIA Japan ITSC 2008 事務局 宛

連絡先: 03 - 5226 - 5345

【提出いただくもの】

- ・ 要件を満たしたビデオ (DVD)
- ・ 提出ドキュメントフォーム

【個人情報及びご提出いただくビデオ (DVD) について】

- ・ 提出したビデオ (DVD) のバックアップを必ず取って下さい。ビデオの紛失や破損はめったにありませんが、万一これらが起きた場合に再度提出できるようにバックアップを取っておく必要があります。
- ・ CompTIA 日本支局は、提出されたビデオ (DVD) を参加者に返却致しません。
- ・ 個人情報は、CompTIA 日本支局の個人情報保護ポリシーに基づき管理されます。個人情報保護ポリシーにつきましては、http://www.comptia.jp/cont_privacy.html をご覧下さい。
- ・ 提出いただきましたビデオ (DVD) は CompTIA 日本支局にて 1 年間保管し、本人の許可なく外部に提供することはいたしません。1 年後に最適な方法にて破棄いたします。

ビデオ (DVD) に収めるパフォーマンスの計画について

ビデオ (DVD) に収める講習計画を慎重に立てて下さい。下記を参照のうえ、必要要件を満たすよう撮影を行ってください。

【ビデオの構成】

- ・ ビデオ (DVD) は **17 分～22 分** の長さとしてください。22 分が経過した時点で、それ以降の採点は行われません。
- ・ ビデオ (DVD) の**編集は不可**です。しかし、必要な場合 (実験演習のために場所を移動しなくてはならない場合など) は、一度だけテープを停止し再スタートすることができます。
- ・ ビデオテープ (DVD) には、**ITSC 参加者 1 名が実施する講義**しか入れてはいけません。
- ・ 受講者として、**最低5人の成人 (18 歳以上)** が写っていなければなりません。採点委員が受講者の存在を確認できるように撮影して下さい。必要な場合は、カメラを時々回して部屋全体を写すなどして下さい。
- ・ 静かで十分に明るい場所を選んで撮影し、ビデオ (DVD) カメラが声をはっきりと録音し、使用するメディアや他の教材を写し、受講者の動きややり取りを捉えられるようにして下さい。

【内容と評価】

- ・ ビデオ (DVD)、及び添付いただきます提出フォーム (別紙) は、**コンピテンス評価ガイド** (別紙) に基づき 10 項目 (10～40 点) で採点します。なお、「コンピテンス評価ガイド」は、CTT+ VBT () の評価ガイドを CompTIA Japan ITSC 2008 用にアレンジしたものです。
- ・ 要求されているコンピテンスを実演していれば、講習の種類やその表現方法、使用するメディア (プレゼンテーシ

ョンソフト、ホワイトボードなど)の種類などは自由です。

- ・ 講習内容は、ある程度の専門性と複雑性を備えている必要があります。単純すぎる内容、分かりきった内容、実際の業務と関連しない内容などでは、熟練度を適切に評価することができない可能性があります。
- ・ 講習内容は、実際のコースの一部でも、今回のため準備されたものでも構いませんが、「導入、中間部、まとめ(章のまとめ、実機操作に入る前のまとめ、休憩前のまとめなど)」で完結している必要があります。
- ・ 講習内容には、信憑性がなければなりません。受講生の発言・質問・回答が人工的であるか、あまりにも不自然な場合、該当のコンピテンス評価で「2」以上がつくことはありません。
- ・ ビデオ(DVD)に対する採点委員の評価を、人材育成サミット2009開催後、A・B・Cの3段階評価で郵送もしくはeメールにてご案内致します。

【提出テープのフォーマット / 規格】

ビデオテープ: VHS 規格

DVD: ビデオ録画用の DVD

DVD+RW/+R/-RW/-Rなど様々なメディアフォーマットに対応しています。また、DVDハンディカムなどで撮影された8cmDVDにも対応しています。

DVD+RW Vol.2(3-8倍速)録画対応ディスクには対応していません。

MP3の音声、JPEG画像の再生に対応しております。

【ビデオ(DVD)撮影を成功させるヒント】

- ・ 提出用には新しい未使用のビデオテープ(DVD)をご使用下さい。
- ・ 三脚を利用することを推奨します。ぶれている画像は、採点者にとって見づらいものです。
- ・ グラフィックスや黒板に書かれたもの等は、クリアで読めるものでなくてはなりません。実際の目には読めるものもカメラを通しては読みにくいことがあります。黒板やホワイトボードに反射する光にはご注意下さい。ボード上に光沢のない紙を貼ってマーカーで書くといいでしょう。
- ・ カメラは1台しか使ってはいけません。部屋の斜め横あたりにカメラを設置すると、コンペ参加者と受講者、メディアなどを写す事ができます。
- ・ 撮影中カメラを動かす場合は、ズームレンズを一番ワイドにセットして下さい。そうすれば、映像のブレを少なくできるでしょう。
- ・ 明かりが多いほど映像の質が良くなりますが、光源には向けないで下さい。例えば、ブラインドが開いている場合は窓から教室に向けて撮影すると良いでしょう。
- ・ 音は、録画にあたり最も難しい問題の1つです。トレーナーや受講者の声がとても聞きづらいことがあるかもしれません。人の耳に直接なら認識できる音がビデオ(DVD)ではそうではないこともあります。
- ・ 2、3回試し撮りをし、マイクの感度をテストして下さい。受講者に大きな声を出すように指導して下さい。より良い質の音を出せるように別の外部マイクを取り付けてもかまいません。
- ・ 扇風機やエアコン、実演で利用する機材などのスイッチを切ってもかまいません。窓のそばで録画する場合、外の騒音(特に車など)が録音されてしまうようならば、別のマイク(カメラのマイクではなく)を使用し、ビデオ(DVD)の質を左右する無関係な外部の音を緩和することができるようでしょう。
- ・ 撮影を開始する前にカメラが作動しているかを確認して下さい。最初の2、3秒の遅れが重要な情報を失うことになりかねません。

CompTIA CTT+とは http://www.comptia.jp/cont_certif_08.html

Certified Technical Trainer+(CTT+)は、様々なインストラクター資格プログラムの重複をなくすために作られた、トレーニングのエキスパートによって定義づけられたインストラクター(またはトレーナー)としての業務能力を評価する認定プログラムです。出題範囲や試験問題は、すべて実際のインストラクター(またはトレーナー)により作成されています。

2次試験で構成され、1次試験のCBT(コンピュータ・ベース・テスト)は、トレーニングの専門家としての経験や教育を通して取得した知識レベルを、2次試験のVBT(ビデオ・ベース・パフォーマンス・テスト)では、実際のインストラクションを撮影したビデオ(DVD)で、定義されたスキルの実践力を評価します。

CompTIA CTT+ VBT 採点委員とは

- ・ 経験を積んだ指導者かプロのトレーナーであり、自らも CompTIA CTT+を取得することでコンピテンスを証明しています。
- ・ CompTIA CTT+ VBT の採点に関するワークショップに参加し、定期的に行われる採点基準確認及び設定のための再研修に出席しています。
- ・ CompTIA CTT+ VBT の基準に従って、正確かつ公平に採点できるということを実証しています。